

私の地域では毎年、十一月三日に伝統の祭りが行なわれている。それは神社の中で奉納される浦安の舞である。わずか十五分ほどの舞だが、その中で、扇、鈴の舞を奉納する。この舞は、今年一年の豊作や家内安全、無病息災を祈る行事として毎年行なわれている。地域の人たちは、このような舞を奉納できることに誇りを持っている。

この他にも代々受け継がれてきたことがある。それは、太郎石、次郎石の持ち上げ大会である。今年も小学校からお年寄りまでが参加した。百キログラムの太郎石と四十キログラムの次郎石をどれだけ高く持ち上げられるかを競う競走だ。その大会に出場した人の中で私がびっくりした方がいる。その方は、この神社の近くで農業をしている七十五歳のおばあちゃんだった。このおばあちゃんは四十キログラムの次郎石を自分の顔の高さまで持ち上げた。周りからも歓声があがっていた。大会終了後に、テレビ局の方がおばあちゃんにインタビューしていた。「なんでこんなに持ち上げられるんですか。」という質問に対しておばあちゃんは「毎日畑仕事をしているからだね。」と答えた。私は、七十五歳で元気に生活できることがすごいと思った。



私の住んでいる地域は小さく、少人数だが、こんなにもみんなで協力し、楽しく交流できることはすばらしいことだと思う。小学生はみんなでみこしをかつぎ、地域を回る。笛の音をもとに「ピッピワッショイ、ピッピワッショイ。」と元気な声を神社の中まで届けてくれている。一人一人が自分なりの地域に対する気持を持っている。この声の一つの大きな輪となって、地域の活性化につながるだろう。

浦安の舞、太郎石と次郎石の持ち上げ大会、みこしを守り続けていくとともに小塩江の未来についても考えてみる。

まず一つめは、小塩江のよい所を世界中に発信していきたいと考える。私たちの住んでいる地域は、世界から見たら本当に小さいけれど何かできることはあるはずだ。例えば、内戦が起こっているシリアやナイジェリアの人々に、「戦争はやめよう。」と呼びかけられないだろうか。私が通っている小塩江中学校でもホームページがあり、学校の様子を全世界に発信している。このホームページを使って平和な世界を作るために必要なことを伝えればよいと思う。

また、私たちが住んでいる地域は少子高齢化が進んでいると言える。子どもたちが少ない中で、子どもたちがメインとなる行事を行なうことができるのは恵まれていると思う。地域の人々と交流する楽しさ、うれしさをインターネットなどをとおして伝えればよいと考える。配信サイトなどでは、今、イスラム教の人質事件が注目を集めているが、見た人によっては「私もやってみたい。」などと思い、悪い方向へ進んでいってしまう可能性もある。そこで、私たちの地域の活動を配信することで事件が起こりにくくなることもあるだろう。平和な世界につながるメッセージをどんどん発信することは、小さいことかもしれない。しかし、継続していくことで大きな力になるのだ。

私は、生まれてきたこの地域で暮らせていることがうれしい。人数が少ない地域だからこそ交流できる場が多いので、一日一日を大切にしていきたい。そして、長年受け継がれてきた伝統文化を守り、次の世代につなげられるように努力したい。すべては世界平和を築いていくために。